１．科目名（単位数）	図画工作Ⅱ（小）　（2 単位）	３．科目番号	SJMP2141 EDEL2304
２．授業担当教員	中川　画太		
４．授業形態	実技、講義	５．開講学期	春期
６．履修条件・ 他科目との関係	図画工作Ｉの単位を習得した後に履修することが望ましい。		
７．講義概要	図画工作Ｉにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。 実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、指導者として造形教育の実践の場に通用する幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を探求するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。		
８．学習目標	１．技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 ２．子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 ３．発達段階における造形の特質を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 ４．素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 ５．造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。		
９．アサイメント （宿題）及びレポート課題	・基本的に、毎時の実習において制作する作品を提出課題とする。 ・上記以外に、グループワークによる「伝えること」を念頭に置いたプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションの結果についての他、グループワークに於いて求められることと、それに如何に対応していくかなどをレポートして提出する。		
10．教科書・参考書・教材	【教科書】（購入の必要はない。）授業の進行に伴ってレジュメを配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。 制作用具・材料を自ら揃えることも指導者になるための学習の重要な要素なので、オリエンテーションや前週に支持された内容に沿って、各自、確実に準備して授業に望むこと。		
11．成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1．児童の表現に寄り添った造形活動の在り方について考えを深め、実践的な力がついたか。 2．発達段階における造形表現の特色や、造形素材や題材化に関する知識が身につけられたか。 3．児童の豊かな造形活動を支える基礎的造形力、技能が身につけられたか。 ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1．授業への積極的参加　総合点の 20% 2．日常の学習状況及び自己課題への取り組み　総合点の 30% 3．制作や鑑賞活動の成果（ポートフォリオ等）　総合点の 30% 4．課題（作品発表、レポート等）　総合点の 20%		
12．受講生への メッセージ	指導者としての資質を獲得するという目標を自覚し、そのために必要な体験を、より豊かで有効なものとするために、 ・制作に集中すること、そのために最低限必要とされる体調の管理をしっかりして臨むこと。 ・指示された用具や素材を必ず用意すること。 ・制作した作品を大切にファイリングして、今後の貴重な資料とできるようにすること。 以上３点、厳守です。一つ一つの体験を一過性のものとせず、より多くを身に付けて行けるよう意識を強くして臨みましょう。		
13．オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

14．授業展開及び授業内容

講義日程	授業内容	学習課題	
第１回	◇ オリエンテーション 講義概要。 鉛筆等を使った視覚認識についての実習を通して、児童生徒の指導に欠かせない観察力を再認識する。	事前学習	絵画表現や紙工作など、図画工作Ｉでの造形活動を振り返り、達成度などを思い返しながら、図画工作Ⅱにおける自分自身の目標設定を考える。
		事後学習	「読みとる」ことと、「見ること」「発見すること」との関連について理解を深める。
第２回	◇ 造形実習Ｉ【表出体験、表現体験Ｉ（平面）】 「形、色、音」 表現とはどういうことか、その根本を視覚だけでなく、触覚、味覚、聴覚を関連づけた描画体験から考える	事前学習	指示された用具の準備。
		事後学習	「表現とは？」をより深く考える。 作品をファイルする。
第３回	◇ 造形実習Ⅱ【表現体験Ⅱ（立体）】 表現とはどういうことかを立体制作に展開して考える	事前学習	造形表現と言語の関係について、図画工作Ｉでの体験を振り返る。粘土など材料・用具の準備。
		事後学習	繰り返し、「表現とは？」をより深く考える。立体作品のファイリングについて、考える。
第４回	◇ 造形実習Ⅲ【表現体験Ⅲ（平面）】 「目鼻口の無い自画像」 言葉による感情表現を起点とする平面への描画体験から、児童生徒の表現理解へ近づけるよう、表現とはどういうことかを総合的に把握する。	事前学習	造形表現と言語の関係について、図画工作Ｉでの体験を振り返る。
		事後学習	見つめて、発見し、感動する、その大切さを確実に認識理解する。 作品をファイルする。

第５回	◇ 版を使った実習Ⅰ【孔版（ステンシル)】 ＜児童生徒の表現から、より多くを受け取れる能力を身につけるⅠ＞ ステンシル技法を通して、実際の指導時を思い描きながら制作してみる。	事前学習	幼児からこれまでの版的表現体験を振り返る。
		事後学習	初体験な「刷り」の効果を確かめ、予想外に巧く行った点、より工夫できると思われる点などを確認する。作品をファイルする。
第６回	◇ 造形実習Ⅳ【表現体験Ⅳ（デカルコマニー)】 ＜児童生徒の表現から、より多くを受け取れる能力を身につけるⅡ〈気づきのポイントを体験する＞ 直描きではない表現からの気づきを、デカルコマニー（オートマティズム）で体験する。水彩絵の具の可能性を目の当たりにして、用具、素材への興味関心を高め、授業実施へ応用できる能力を培う。	事前学習	造形表現から何を感じるか、これまでの体験を振り返る。
		事後学習	自らの手によりながらも、偶然が生み出した図像に何を見いだせるか。「子どもの描画」に寄り添えるようになるためには、どんな資質が求められるのかを、熟考する。作品をファイルする。
第７回	◇ 版を使った実習Ⅱ【凸版Ⅰ（フロッタージュ)】 （児童生徒の表現から、より多くを受け取れる能力を身につけるⅡ〈気づきのポイントを体験する〉) 直描きではない版表現からの気づきを、まず、フロッタージュ技法で体験する。素材の選択、フロッタージュできる物探し等、用具、素材への興味関心を高め、授業実施へ応用できる能力を培う。	事前学習	指示内容の意味を深く解釈して材料の準備。
		事後学習	触覚を感じながら制作した体験をより深く認識するように努める。 作品をファイルする。
第８回	◇ 造形実習Ⅴ【表現体験Ⅴ（平面)】 （児童生徒の表現から、より多くを受け取れる能力を身につけるⅣ) 割り箸ペンを使って、水彩絵の具の様々な可能性に触れてみる。	事前学習	これまでのデカルコマニーや版表現で発見したことを振り返っておく。
		事後学習	水彩絵の具遣いにおける水の扱い方での新たな気づきなどを再認識する。作品をファイルする。
第９回	◇　実践実習Ⅰ【色彩の基礎】 水彩絵の具による混色体験。指定された「色」をどうしたら作れるのか、有彩色の混色によって無彩色に近い色を作れることを知る、など、色彩展開の可能性を広げる体験を積む。	事前学習	紙工作体験を振り返り、材料・用具を準備する。
		事後学習	これまでの絵の具遣いを振り返り、実践を通して広がった絵の具遣いの可能性を確認する。作品をファイルする。
第１０回	◇　造形実習Ⅵ【塗り絵制作】 塗手を具体的にイメージして、塗り絵を制作する。「描く」ことの意味を「塗る」と分けてとらえることで、その重要性を認識することが目標である。	事前学習	幼児からこれまでの塗り絵体験を振り返る。
		事後学習	人間の発育に於いて、描くことの重要性を強く認識する。 作品をファイルする。
第１１回	◇ 実践実習Ⅰ 【見立て活動の聞き取り実践（平版を使って描画)】 大人と子どもの絵の成り立ちの違いから、子どもの絵との接し方、さらには、絵を介しての子どもとのコミュニケーションの仕方について、実践体験を通して考える（低学年の児童生徒を意識して、 図式期の表現に寄り添える能力の獲得を目指す)	事前学習	見立て聞き取りについて、図画工作Ⅰを振り返っておく。
		事後学習	コミュニケーションの内容や、お話のまとめ方を振り返り、良かった点、工夫すべき点を整理して、技量の向上に努める。 作品をファイルする。
第１２回	◇　版を使った実習Ⅳ【凸版Ⅱ（紙版画Ⅰ)】 版制作 版表現は、直描きではない分、素朴な構造から複雑なプロセスを要するものまで有ることを理解し、計画性などが求められることを体験。児童生徒の、学年に応じた難易度にも考えをめぐらしながら制作を進める。	事前学習	紙工作体験を振り返り、材料・用具を準備する。
		事後学習	「版画」の特性を振り返り、確認する
第１３回	◇　版を使った実習Ⅴ【凸版Ⅲ（紙版画Ⅱ)】 刷り（児童生徒の表現から、より多くを受け取れる能力を身につけるⅢ〈工夫とその結果から感じる体験〉) 前回制作した版で刷ってみることで、計画通りにいった面だけでなく、様々な発見を体験する	事前学習	版画の刷り上がりには、どのようなパターンがあるのか、調べておく。
		事後学習	版制作時に考えていたことと、実際の刷りの効果を比較して、予想外に巧く行った点、より工夫できると思われる点などを確認する。作品をファイルする。
第１４回	◇ 造形実習Ⅷ【“図画工作”と風土（季節の移り変わりをテーマに、描画)】他者が制作した塗り絵を、その意図を汲み取りながら、塗る体験。	事前学習	造形表現から何を発見し、何を感じるか、感動できたか、など、これまでの体験を振り返る。環境意識などについての自分の考えをまとめておく。
		事後学習	図画工作という科目が、日本の風土と深く関係している点を振り返る。作品をファイルする。
第１５回	◇ 造形実習Ⅸ【塗り絵を塗る】他者が制作した塗り絵を、その意図を汲み取りながら、塗る体験。 講義まとめ【「自画像」と「塗り絵」鑑賞、ふり返り、講評】	事前学習	塗手のどのような特性を意識して塗り絵を作ったのかを、振り返っておく。
		事後学習	実際に塗って見ることでの気づきを振り返る。全講義で体験し得た事、気づいた事、考えた事をノートし、作品のファイルと共に、確実に保管する。